



発行所 東京片貝会 東京都江東区高橋5-1-313 電話 (3632) 0156

今年の幸を、みんなで祈念しよう

どうぞ！ 新年会に

期日 平成5年1月31日(日)午後一時 会場 東京新潟県人会館

西年の春にあたり、お健やかにお過ごしのことと存じます。本年も無事に正月を迎えられた喜びを、噛みしめています。今回も皆様のご協力により、楽しい福引を企画しようと思ひます。皆様からのご寄付をお願い致します。会からも用意します。ぜひご出席を

記

- 一、日時 平成5年1月31日(日)午後一時(正午より受付)
一、会場 東京新潟県人会館(台東区上野1丁目13-6)
(銀座線)、「JR」御徒町「七分
一、会費 五〇〇〇円(料理・飲み物・果物・福引など)
お願い 返信は1月20日までに届くようお願い申し上げます。

同級会

昭六会(昭6) 11月4・5日 湯沢温泉へ二十四名が集って、懇親を深めた。意義多い

会であった。

和風会(昭17) 7月 湯沢温泉で

ゆくて会(昭18) 6月27・28日 磯辺温泉で同級会

立志会(昭21) 6月27・28日 湯沢温泉で懇親

講春会(昭24) 6月13・14日 赤城温泉で清水先生を招き

16名が参加して盛会だった。

会の動き

- 第33回総会 6月28日 二面参照
第11回母校を励ます会講演会 11月4日 三面参照

再び会費について

前号でもお知らせの通り、年会費は千円、振替用紙を同封した方は、その年度の会費をいただいていない方です。既納の方には同封しております。

このことを、まだよくお分りでない方もあるようです

佐藤家跡地について

佐藤家の跡地は、母家を含めて千五百坪の広さがある。先代佐平治氏の没後、奥様がお一人で居住されていたが先ほど物故されたので、今は空家になっている。子息の忍氏は、沼津におられるが、長い間帰郷されていない。

町の心ある人達が話し合っただ。この土地を市に買い取ってもらうには、そして、ここを町の広場として利用したい佐藤家は、元禄の頃からの旧家で、由緒ある家柄である。秋山郷の結束村の窮乏を救済

ので、重ねてお知らせしました。どうかよろしくお願い申し上げます。

人の動き

安達市郎氏逝去 2月29日 前々会長安達竜作氏時代に、会の為に尽力された方。奥様の没後、ご子息のおられる大阪へ転住。90才であった。若さを凌ぐ元気な方でしたが、往年会に尽くされた功績も大きかった。

したことも、よく人に知られているところである。協議会は去る九月に、小千谷市へ陳情した。住宅地として、切り売りされるようなことは忍びないことである。ある有識者はこう言われた市に買取をお願いしたのは、よいアイデアだ。

然しそれだけでは、熱意が理解されないかも知れない。こちらにも、いくらかでも資金を用意するくらいの努力があるべきではないだろうか、と。

異動(転居・表示変更・電話)

Table with 2 columns: Member Name and Address/Phone Number. Includes members like 大正12 横山 隆, 昭和8 石田 貞子, etc.

33回目総会

新緑美しく燃えて

平成4年6月28日
東京新潟県人会館にて

心配していた空も次第に青みが増してきて、心もほぐれてくる。

安達生恒さんの叙勲をお祝い申しあげるつもりだったが奥様が入院中で実現しなかったのが、心残りである。片貝のお客様は十名お出でになり、会を盛りあげていただいた。

会長あいさつ

小野塚茂さんの司会。黒崎正副会長の挨拶で開会される。続いて勝又会長が立ち、案内状は五百五十通発送したが、返信は二百二十通あったこと。会報は会と会員を結ぶ大きな



きずなになっている、その編集には大変な労苦がかかっている。ぜひ、編集に協力をしてくれる方をお願いしたい。役員改選の準備も進めているので、近く実現したい。よろしく願います、と挨拶。会計報告の後、小川茂雄さんから監査報告があった。佐藤量八さんから母校を励ます会の現況を報告し、小中学校へ十回目の図書代を十万円ずつ贈呈する。そして芝三四司副会長の締めくくりに、総会は終了した。

お客様のあいさつ

続いて来賓を紹介、代表として小林市議から次のような挨拶があった。

母校が改築されることになって嬉しさい一杯です。皆様が郷里を大切にしておられることに感謝します。どうか片貝にセカンドハウスを設けて、一層交流を深めてほしい、と。

乾杯

会員の先輩安達宗吾さんの乾杯で懇親会が始まる。

歌がつつぎに出る、しやぎりも演奏された。片貝の山村さん、強羅の山口さんまで参加されて、近頃になくすばらしい響き、場内に満ち溢れた。

五時近く会は閉じられた。

当日の出席者(69名)

- 来賓 敬称略
- 協議会副会長 相崎勇吉
- 小千谷市議 関 広一
- 同 小林光紀
- 同 吉原正幸
- 同 吉原芳郎
- 同 本田正史
- 同 山村理策
- 同 渋谷正教
- 同 和田 厚
- 同 佐藤 仁
- 同 佐藤正雄
- 同 佐藤量八
- 同 安達宗吾
- 同 昭和2、10
- 同 相崎勇次
- 同 本田正秀
- 同 早川松太郎
- 同 山口ヨシ
- 同 小川茂雄
- 同 友田勇四郎
- 同 芝 五郎
- 同 吉井武二
- 同 小野塚マツ
- 同 浅田鉄二
- 同 山口三郎
- 同 日下部政子
- 同 丸山 春
- 同 芋川とし
- 同 藤田睦子
- 同 小宮竹次
- 同 田口タズ
- 同 松井エウ
- 同 朝妻ヨシ
- 同 黒崎孝造
- 同 武藤睦子
- 同 勝又 功
- 同 芝三四司
- 同 堀井豊作
- 同 小宮良夫
- 同 安達 武
- 同 昭和11、20

会員短信

箕輪みね先生

療養中にて出席できません。お集まりの皆様によりしく大矢福次(大12)眼が不自由になりました。ご盛会を祈ります。

高橋清雄(大15)

退院後で、まだ本調子になっていません。

石黒佐忠太(昭4)

年のせいで、外への出歩きがままなりません。

相崎善次郎(昭5)

六月上旬に退院しましたが、只今静養中です。

黒崎敬五郎(昭6)

第27回の全国展「瑞雲」を都の美術館で開催しました。七月一日より六日まで。



(敬称略)

私の主宰している墨游書展は、本年十五回を迎えて、銀座で催しました。十月三十日より十一月三日まで。

大矢幸治(昭7)

元気になって、新年会には出席したいと思っています。

広川久美子(昭12)

佐藤の跡地については、よろしく願います。

註・(広川さんは佐藤佐平治様のお子様)一面参照

黒崎音吉(昭13)

銃剣道の指導者として活躍しています。

内海光子(昭16)

会報を手にする度に、故郷を、友を懐かしんでいます。役員の皆様へ感謝して

中野みちよ(昭16)

「ふるさとは今」とても懐かしく読ませていただいています。多忙の日々、ふるさとに心を馳せています。

松下利夫(昭18)

五月の東京新潟県人会に出席しました。皆様のお顔がなく残念でした。

城所テル(昭18)

いつも会報を懐かしく拝読させていただきます。総会の楽しいひと時を思い浮かべています。

忍足良子(昭22)

中学校が改築とのこと、終戦後始めて中学校ができることき土運びで汗を流したことをなつかしく思い出しました。

佐藤孝二(昭22)

いつもご案内をいただきながら、欠席で申し訳ありません。当地のあじさい寺として有名な資福寺の庭で、乾杯しようと思っています。仙台

鈴木アヤ子(昭29)

会報をいつも楽しく読ませていただいています。片貝が発展している様子が分かり、喜んでいきます。

吉井信三(昭32)

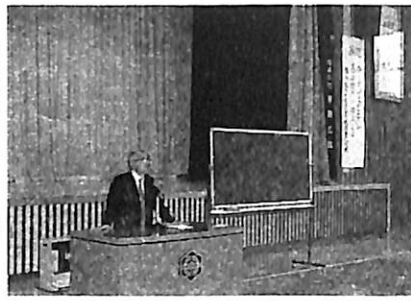
妻が乳がんを再発して、六月に永眠しました。落着いたら、まだ出席させていただきます。

大正十二年卒 佐藤量八氏

今なぜ「やせかまど」か

太刀川喜右衛門に学ぶもの

曇り空の下に、真紅に咲くサルビヤの花が、この秋も迎えてくれる。講演は二時に開始された。



私が講演をお引き受けしたのは、東京の皆さんから、一度「やせかまど」の話をして欲しいと、前から、勧められていたからです。皆さんの先輩小宮善興さんは、中学の時に、「やせかまど」の研究発表をしたということをご本人から聞きましました。喜右衛門が序文を書いたのが、文化六年正月です。この日を本書の成立年としているのが、一般に言われているように、51才の時です。けれど

第11回母校を励ます会講演
平成4年11月4日二時

も、その後十五年間の出来事が書いてあります。著者が亡くなる五年前です。だから著者は、この本を書くのに二十年近く、或いはそれ以上かかっているのではないのでしょうか。喜右衛門の生涯の仕事だったと思う。本は八冊からできていて、前篇四冊が、農業や政治、仏教、風俗習慣、娯楽、動植物のことなど、多方面に亘っています。後篇は、当時村を中心に起きたできごとを、ほぼ年代順に書いてあって、その記述は、記録文学としても価値あるほどの内容です。本書の価値は、左の三点に要約される。

- 1、文化・文政時代の農業の様子を克明に述べてある。
 - 2、越後の農村からみた当時の政治のしくみ、国の動向、真宗の信仰のことなど、興味深く書かれている。
 - 3、郷土史の資料として大切な資料である。
- 続いて喜右衛門の功績を述べ、更に本書が今日に伝わってきた経緯を説明し、内容の

一例として、付録三「村方陣屋の事」を取り上げた。当時ロシアの船が、日本海にうろついていた。幕府は心配して、与板の殿様を弥彦山の下に移して、監視させようとした。それには石瀬にある代官所を移す必要があった。どこか希望の村は申し出よとのことである。これに名乗りをあげたのが、片貝をはじめ七か村あった。いろいろのいきさつがあって、結局最後の争いは、片貝と加茂が残る。ところが、片貝は近隣の村の署名をもらっていないため、幕府の受けもよくない。

大急ぎで、近隣の庄屋を片貝に呼んで依頼したが、どうも手遅れである。ご馳走や演芸で、必死の説得をする。地理的にも近い片貝に是非の説得で、漸く賛成してもらった。書類は四日間、江戸へ送られた。片貝に決定したという情報もあった。ところが、結果は白河藩の申し入れで、出雲崎に決まってしまった。

結局不成功になってしまったが、村の発展にかけた情熱には、心うたれるものがある。さて、片貝は今後どう歩むべきか。いろいろの提案を聞いているが、喜右衛門の熱意に、耳を傾けるものがある。私達の時代と違い、殆どの人達が、上級校へ進学できる時代です。それを噛みしめて感謝し、勉強して下さい。自分

分の人生は、自分が切り開くよりほかありません。どうか一日一日を大切に、精いっぱい力強く歩んで下さい。講演会には、小学校六年生と中学生全員が参加してくれました。話を聞く態度は、いつもながら立派であった。片貝健児はさすが、と頼母子かった。

洋々文庫が新鴻日報に紹介された

母校を励ます会・報告

「洋々文庫」は、会の代表佐藤祐一氏が、小学校の校歌から採用して命名したもので図書室に特設されている。十年間に八百冊の図書が寄贈され、児童の皆さんに喜ばれている。去る十月二十八日の新鴻日報に、詳しい様子が写真入りで紹介された。

支援をいただいた方(56名)
大正
帰山すま 佐藤正雄 佐藤量八
安達清次 永井正雄
昭和2、10
野上フミ 大塚文雄 友田勇四郎
堀井豊作(2) 藤塚栄三郎
小野塚れつ子
昭和11、20
川村朝子 横田トシ 広川久美子
内山キミ 内海光子 萩原ます子
安達敬一 庄司とう 中野みちよ
小宮武夫 木村百合子
昭和21、30

小学校 89冊
学研まんが事典 38巻
学習まんが理科 12巻
21世紀こども地図館 6冊

分の人生は、自分が切り開くよりほかありません。どうか一日一日を大切に、精いっぱい力強く歩んで下さい。講演会には、小学校六年生と中学生全員が参加してくれました。話を聞く態度は、いつもながら立派であった。片貝健児はさすが、と頼母子かった。

母校を励ます会・会計報告			
会報45号以後の収支(平成4・6・1~4・12・31)			
収	入	支	出
	¥142,373		¥212,660
基金(56名)	138,000	図書(小・中)	200,000
利息	4,373	講演会	10,000
		郵券	2,660
全通算会計(昭和58・5・1~平成4・12・31)			
収	入	支	出
	¥3,144,240		¥2,379,778
基金(延888名)	2,917,200	寄贈図書(10回)	2,200,000
利息	227,040	講演会(11回)	110,000
		印刷・郵券等	69,778
現在高 ¥764,462			

厚くお礼申し上げます。内藤富美子(大阪府) 大矢三郎 殆ど各年度の方からご協力いただきました。変わぬご芳情に

藤塚真澄 安達弘男 吉原三代治
相沢キミ 安達吉秋 忍足良子
黒崎 正 佐藤孝二 吉原新作
丸山恭次 永井 一 渡辺チエ子
本田幸男 浅田 弘 小川イエ子
高橋一郎 千葉悦子 黒崎紀雄
大塚洋子 鯉島昭雄 黒崎真知子
本田十三雄
昭和31、40
吉田弘子 小宮善興 諸我時夫
平沢和子 安達寿光 浅田達夫
黒崎修二 渡辺信夫 小野塚和夫
昭和43

ふるさと・は・今

平成四年六月から十二月まで

国立能楽堂に出演 5月24日
片貝の謡曲会には、98名の会員があるが、東京から二ヵ月に一回遠藤先生に教えを受けている。今回先生の35周年謡曲大会に、50名の会員が上京して参加した。会場は国立能楽堂。この中17名が出演した。



木遣りの歌詞を配布 7月
かねて芸能保存会が、正調を後世に伝えたいということに勉強を続けてきた。秋祭りを前にして、前唄と道中木遣りを印刷して、全戸に配布した。今後講習会を開いて、一

般町民に普及したいという。ゲートボールで優勝8月6日
白山運動公園へ市内の47チームが参加して熱戦をくり広げた。主催は小千谷新聞社。炎暑の中、四之町のヤヨイ会チームが見事優勝した。農協の綱引き大会 8月23日
片貝中学で開催された。町の行事として人気があるが、本年も鴻之巣チームが男女共に優勝した。
お墓の草とり 8月
お盆が近づいても、お墓の草取りがままならない。シルバー人材センターに受注が多く、まかない切れないほどであった。時給は六百円。今年の草とりには、延五百名が働いたということである。
「花火に熱狂する片貝」8月
著者渡辺三省氏は、小千谷の市史を編さんした学者。B6版二八二頁、千二百円。「一発ドカーンと揚げて、一年中の労苦が報われる、町中がそう、実に不思議な価値観」とある。
花火の競演 9月9・10日
見物の観衆は、七時過ぎから続々境内に集まった。

二日間の入出は15万人といわれ、千席の棧敷も人で埋った。市内や近隣は勿論、関東方面からの団体が多く、遠くは九州からもきたという。三尺玉は六発、四尺玉は毎夜十時に揚がったが、どれも見事に開いた。八日の前夜祭、九日朝の筒引き、夜のお囃子コンクール(い組が優勝旗)。十日朝の鼓笛隊、昼の大相撲は例年の通り。町は沸きに沸いた。
今年の米作予想 9月9日
市の農業委員会が調査した

が、予想一〇％で、昨年並と発表された。11月
魚沼線が廃止されたのが59年である。それ以来遅々として進まなかった工事は、このほど大屋敷から三四〇m(幅16m)だけ完工した。来迎寺まで3.5kmあり、これから本格的に捗るものと期待される。
駅伝大会 11月8日
本年度13回目となった。老若男女で五人一組のチームを作る。四九組参加した。中でも片貝の事業所や農業応募数三万点の中の栄冠である。展覧会は、全国各地で開催された。
農協の新参事に友田明石氏 5月15日
空手で七段
これまで黒崎力男氏が、八年間勤めておられたが、退任されて、友田さんが就任。組合長佐藤 仁氏は引続き再任。任期はいずれも三年間
本田善治氏表彰 6月12日
この度日本観光協会の関東支部から表彰され、市のホテルプラザ片山で、祝賀会が開催された。五十余名が出席し盛会であった。
毎日書道展に入賞 8月8日
屋敷の佐藤麗子さんは、漢字の部門で見事入賞された。

が、予想一〇％で、昨年並と発表された。11月
魚沼線が廃止されたのが59年である。それ以来遅々として進まなかった工事は、このほど大屋敷から三四〇m(幅16m)だけ完工した。来迎寺まで3.5kmあり、これから本格的に捗るものと期待される。
駅伝大会 11月8日
本年度13回目となった。老若男女で五人一組のチームを作る。四九組参加した。中でも片貝の事業所や農業応募数三万点の中の栄冠である。展覧会は、全国各地で開催された。
農協の新参事に友田明石氏 5月15日
空手で七段
これまで黒崎力男氏が、八年間勤めておられたが、退任されて、友田さんが就任。組合長佐藤 仁氏は引続き再任。任期はいずれも三年間
本田善治氏表彰 6月12日
この度日本観光協会の関東支部から表彰され、市のホテルプラザ片山で、祝賀会が開催された。五十余名が出席し盛会であった。
毎日書道展に入賞 8月8日
屋敷の佐藤麗子さんは、漢字の部門で見事入賞された。

研究できているカナダ(2)、中国(2)、インドネシア(1)の五人が参加した。21
母校この頃
小学校
わんぱく相撲 5月17日
市内の四・五・六年の選手が百四十名参加した。母校は四年生が三位、五・六年生が一位のよい成績だった。
バスケット優勝 6月14日
長岡市へ六チームが集って対戦。見事三年連続の勝利を果たし、六月末に新潟市で行われる東北大会に出場した。
市内水泳大会 8月8日
谷小プールで。
メドレーリレー、バタフライ、百米平泳ぎで一位をとった。他の種目でも善戦した。
市内陸上大会 8月30日
白山運動公園に、隣接の学校も参加し、九百八十二名の大会だった。善戦したが、一位の種目はなかった。
ゲートボールで快勝 9月6日
県大会が新津市で行われた五の町の五・六年生で編成。毎朝五時半の特訓で準備優勝した。
中学校
市内陸上大会 6月9日
一年生で百米と走高跳で一位、あとは善戦した。
校舎五年七月に完成
面目一新してできあがる。多目的スペース、コンピュータ教室ができる。給食は平成七年から開始される。
同窓会球技大会 8月16日
現役の中学生も参加して、バスケット、バレーを楽んだ少年の主張で入賞 8月21日
教育委員会などの主催で、小体育館で開かれた。母校の名古屋麻里子さん(三年)が「家族へ向けた私の夢」と題して述べ、奨励賞の榮譽をかちとった。
作文コンクール入賞 11月
郵政省主催、全国七万四千点の応募の中で、母校の吉原桂子さん(二年)が三席に入賞。千葉にいる友人に宛てた手紙形式で、自分の学習活動や片貝祭りを紹介して、片貝に住む喜びを述べている。
あとがき
会報で、故郷の様子が分かり、同時に、会の現況も理解していただける、会にとって、大切な作業と思います。後継ぎの出現を望むこと切。新年会には予定を組まれてぜひお出かけ下さい。(S)